

## 令和2年度障害者支援施設けやきの村事業報告書

障害者支援施設として快適な環境のもとで、個人の尊厳が最大限に尊重され、自己決定に基づくその人らしい生活の実現をめざすとともに、地域生活を支える多様な事業の展開と就労に関する支援を充実させ一般企業への就労を含めた社会経済活動への参加を促進するなど、利用者の自己実現をめざした支援を行うため、「令和2年度社会福祉法人けやきの村事業計画」に基づき、それぞれの分野において関係法令に則った適正なサービスの提供と質の向上に努め、次の各項目にそって事業を行った。

### 1. 実施した障害福祉サービス事業

#### (1) 生活介護事業

利用者が自己決定に基づいたその人らしい生活を営むことができるよう、入浴・排泄及び食事の介護、機能維持のためのリハビリ訓練、生活の質を高めるための集団レクリエーション活動、創作的活動または生産活動の機会の提供、その他の便宜を適切かつ効果的に行った。

#### (2) 就労移行支援事業

利用者の就労に対する意欲を十分に尊重し、生産活動その他の活動を通して、就労に必要な知識および技能の習得及び地域生活に必要な能力を身に付けるため、必要な訓練・実習その他の便宜を適切かつ効果的に行った。

#### (3) 就労継続支援B型事業

利用者の働きたいという意欲を十分に尊重し、その人に合った生産活動の場を提供するとともに社会生活における習慣の体得と技能の習得ができるよう、必要な訓練およびその他の便宜を適切かつ効果的に行った。

#### (4) 施設入所支援事業

利用者が日中活動と併せて夜間においてその人らしい生活を営むことができるよう、入浴・排泄及び食事の介護等の便宜を適切かつ効果的に行った。

#### (5) 短期入所事業

居宅においてその介護を行う方の疾病その他の理由により短期間の入所を必要とする障害者に対し、短期間の入所をさせ入浴・排泄および食事の介護等の便宜を適切かつ効果的に行った。

### 2. 運営管理及び諸会議等

(1) 施設は、契約に基づいた利用者本位の支援の提供を基本とし、次の環境整備を行った。

〔環境整備〕

- 特殊浴槽の更新（JK A配分金）
- 体育館エアコンの更新（福島県事業者向け省エネ対策推進事業補助金）

〔物品購入〕

- ① 温冷配膳車の購入（共同募金配分金）
- ② リモート通話用ツールハード一式の購入
- ③ ユニットハウス（3棟）の購入
- ④ 介護ベッド3台の購入

(2) 個別支援計画策定会議を開催し、利用者の生活の質を重視したその人らしい快適な生活が送れるよう、利用者個々の状況及びニーズに基づいた個別支援計画書を作成し、計画に基づいた適切なサービスの提供に努めた。

個別支援計画策定会議開催回数；78回

(生活介護；43回・就労支援B型；32回・就労移行；3回)

(3) 施設の適正な運営のため次の会議を開催した。

マネジメント会議；12回

(4) 公正・公平な事業運営と利用者のサービス選択に資するため、サービス内容に関する情報の提供、財務諸表および事業報告書等の開示を行うとともに、法人機関紙として「けやきの村便り」を2回発行しました。なお、平成26年3月31日に開設した公式ホームページを積極的に活用し、情報提供・情報開示を行った。

令和2年度におけるホームページへの情報提供件数

けやきの村	20件
青松苑	18件
静心園	22件
桃の里	10件
相談支援	4件
合計	74件

(5) 福祉サービスに対する利用者の苦情や意見を汲み上げ、利用者と施設が対等の関係を築くとともに利用者本位の福祉サービス提供を実現するために苦情解決委員会を開催し、苦情解決体制の充実に努めた。

苦情解決委員会：令和2年6月24日開催

令和2年度における苦情については、下記のとおりである。

苦情受付件数；3件（職員の態度を改めてほしい2件、利用者の態度を改めてほしい1件）

(6) 利用者が施設において、安心・安全な生活が送れるよう、ヒヤリ・ハット・事故報告書による未然防止および再発防止に努めるためにリスクマネジメント委員会を開催した。

ヒヤリ・ハット・事故報告件数；119件（前年度比29件増）

〔内訳〕転倒、転落83件（前年度比26件増）・外傷0件（前年度比0件減）・破損等4件（前年度比1件増）・接触0件（増減なし）・火傷0件（前年度比1件減）・誤飲、誤嚥2件（前年度比1件減）・異食0件（増減なし）・誤薬2件（増減なし）・所在不明0件（増減なし）・施設外徘徊0件（前年度比3件減）・施設内徘徊4件（前年度比3件増）・暴行0件（前年度比1件減）・自虐行為0件（前年度比2件減）・紛失1件（前年度比1件増）・衝突1件（前年度比1件増）・その他22件（前年度比3件増）

上記の119件のほか、平成25年3月11日付24自第4657号福島県障がい福祉課長名で通知のあった事故に該当する事故件数 ⇒ 2件（転倒1件、窒息1件）

(7) 障害者の虐待防止に努めるため、職員（59名、無記名）を対象に「障害者虐待防止チェックリスト」を活用し調査（令和2年7・8月）を行った。

虐待防止に関しては、法人内新任職員研修会の研修テーマに加えた。外部研修については、コロナ禍のため派遣を行わなかった。

また、月1回虐待防止・権利擁護委員会を開催し、職員の気づきを大切にしながら日常の支援の中で感じたことを中心に話し合い、会議録の回覧により職員に周知した。

(8) 労働安全衛生法の改正に伴い50名以上の事業所に義務付けられた「ストレスチェック」を実施し、職員のメンタルヘルスケアに努めた。

(9) 感染症対策として蔓延防止マニュアルに基づき、職員に周知徹底を図り、対策を実施するとともに、新型コロナウイルス肺炎感染症、インフルエンザやノロウイルスなどの感染性胃腸炎の予防のため全居室に空気衛生機を設置し細心の注意を払い、感染の未然防止に努めた結果、感染者を出さなかった。

(10) 職員の資質向上の観点から、個人研修計画に基づき積極的にOFF-JTを活用しました。職員

の研修会の参加については、福島県社会福祉協議会研修センター主催の研修会を中心に参加し職員の資質の向上に努めました。併せて、法人主催の新任職員研修会にも参加、研修報告会についてはコロナ禍であるため実施できなかった。また、自己啓発援助制度を積極的に活用し自己研鑽に努めた。

◎外部研修会参加状況；福島県社会福祉協議会研修センター主催研修会 11回 11名  
 社会就労センター協議会関係研修会 0回 0名  
 身体障害者施設協議会関係研修会 0回 0名  
 その他の研修会・セミナー等 1回 1名  
 合計 12回 12名

◎内部研修会参加状況；法人主催 新任職員研修会 2回 7名  
 普通救命講習会 0回 0名  
 新規採用者就業前研修 0回 0名  
 委員会主催 虐待防止研修会（虐待防止・権利擁護委員会）  
 0回 0名  
 口腔ケア研修会（教育研修委員会）  
 1回 5名  
 福祉レクリエーション研修会（教育研修委員会）  
 1回 5名  
 人権擁護研修会（虐待防止・権利擁護委員会）  
 0回 0名  
 交通事故防止と冬季の安全運転（事故防止委員会）  
 1回 6名  
 施設主催 勉強会 74名

テーマ；①ガウンテクニック

②人工骨頭置換術施行利用者のケアについての  
 の注意点

研修報告会 2回 23名

◎自己啓発援助制度に基づく研修会参加状況 2回 2名

◎喀痰吸引研修(第三号研修)(特定の者対象)修了者(認定特定行為業務従事者認定証交付者) 6名

(11) 毎月1回衛生委員会を開催し、職員の労働安全衛生に努めた。令和2年度における活動内容は以下のとおり。

開催月日	委員会議題	活動内容
4月14日	新型コロナウイルス感染症対策について	・職員定期健康診断実施
5月12日	職場巡視について	・(※)各種クラブ活動の推進 ・職員腰痛検査(1回目)の実施
6月9日	職員定期健康診断の結果について	・(※)普通救命講習会の実施
7月14日	年次有給休暇の取得状況について	・(※)暑気払い ・ストレスチェックの実施
8月11日	感染症との付き合い方について	・(※)職員旅行の実施(年間) ・虐待防止アンケートの実施
9月8日	労働災害について	・(※)けやき祭の実施

	時間外労働の状況について	・防災訓練の実施
10月13日	ストレスチェックの結果について	・職員の定期健康診断 (夜間勤務職員対象)
11月10日	虐待防止チェックリストの結果について	・職員腰痛検査(2回目)の実施 ・ストレスチェック面接指導
12月10日	夜勤職員の定期健康診断の結果について	・(※)忘年会の実施 ・腰痛予防アンケートの実施
1月14日	子の看護休暇取得について コロナ禍における事務室所の配置等について	
2月12日	介護職員の腰痛予防対策チェックリストについて	・(※)防犯講習会
3月11日	令和2年度活動報告 令和3年度活動計画(案)について	・(※)消防教育ビデオ上映会開催

(※) コロナ禍のため中止

- (12) 福島県北地区における身体・知的・精神の三障害の施設・事業所・団体との連携を強化し、地域の中での福祉施設として、福島県北地区障がい福祉連絡協議会、福島市障がい者地域生活支援協議会及び伊達市自立支援協議会に参加し、その一翼を担った。
- (13) 令和2年度福島市障がい者週間記念事業はコロナ禍のため、不参加とした。
- (14) 中野地区展覧会の実行委員として職員(1名)が参加し、企画・運営に参画したが、今年度はコロナ禍のため中止となった。
- (15) 中野地区大運動会はコロナ禍のため中野小学校運動会として開催され、利用者・職員の参加はなかった。
- (16) 平成20年度より推進している「花いっぱい運動」を展開し、花と緑を大切にしたい潤いのある毎日を目指し、そこに住む人・そこに働く人、そしてそこに訪れる人に「癒しと安らぎ」を与えられるよう努めた。
- (17) 原発事故に伴い社会福祉施設においても節電に対する取組みが求められるなか、令和2年度においても省エネ対策チームを中心として「省エネ、節電運動の推進・ご協力をお願い」を掲示するとともに、こまめな消灯やアイドルリングストップ、空調温度の管理、自動ドアの電源オフなどの対策を行い、節電に努めるとともに、経費の節減・地球に優しい環境づくりに努めた。
- (18) けやきの村三つの定め「利用者に質の高いサービスを」・「職員の生活安定」・「けやきの村の経営の安定」を基本として、全職員が意識を共有し、働き甲斐のある職場づくりに努めた。

### 3. 利用者へのサービス提供について

#### (1) 生活支援

- ① 利用者の生活の質を重視しその人らしい快適な生活が送れるよう、利用者個々の状況およびニーズに基づいた個別支援計画書を作成し、計画に基づき適切なサービスの提供に努めるとともに、適切な時期にモニタリングを行い、利用者の実情に沿った計画の見直しなど、きめの細かいサービス提供に努めた。
- ② グループワークの場を活用し、対人関係におけるマナーと円滑な人間関係の形成や施設運営・行事、職員の接遇対応及び給食等に対する意見・要望を汲み上げた。
- ③ コロナ対策を行いながら、日中活動としての創作活動や喫茶、レクリエーション等レクリエーションメニューの充実を図り、自発的に参加する機会を提供するとともに、社会的な活動への動機

付けとなる支援に努めた。

●評価と課題

利用者本人がその時々でより楽しい生活を送ることに重点をおき日々のコミュニケーションを通して、利用者のニーズとその利用者のストレングスに着目した個別支援計画の立案、作成、支援をすることができた。また、職員の見守り体制を分散化することにより、その時々で傾聴し、実情に沿った支援ができ、利用者との絆がより深まったと言えます。「いつでも相談できる・見える支援」により安心して楽しい生活を支援していきたい。

(2) 健康管理

①利用者の健康維持のため、利用者個人の障害程度や健康状態を把握し、日常の観察を密にして定期健康診断等を実施するとともに、嘱託医及び医療機関等との連携を行い、疾病の早期発見・治療に努めた。

・健康診断の実施

胸部レントゲン検査 受診者； 96名（7月8日、63名、8月5日、33名）

心電図・肝機能検査等 受診者； 97名（10月8日）

貧血・血糖検査等 受診者； 97名（10月8日）

// （第2回目）受診者；103名（3月4日）

・嘱託医の出務

厚生会クリニック 毎週1回

・機能訓練の実施

毎日

リハビリテーション実施計画に基づき、入所者及び通所者に対し、機能訓練やADL指導を行った。

・体重測定

毎月実施

・インフルエンザ予防接種

95名接種

・入院の状況

延べ入院者数 50名（実人員14名）（前年度は延べ45名、実人員20名）

②新型コロナウイルス肺炎感染症、インフルエンザ及びノロウイルス等の感染予防対策として、食堂ホール、就労玄関に「電子式空気清浄機」（塩素系除菌水（ソリューション・ウォーター）を噴霧できる空気清浄機（リース対応）を、1F、2Fケアカウンターに同様の「ソリューション霧化器」を設置するとともに、廊下やトイレ前、居室前の施設内各所に手指消毒用速乾性アルコール液を配置するなどし、感染防止に努めた。

③利用者の健康に関する個人情報の取扱いに関しては、個人情報保護法等関連する規則を遵守し、健診結果や通院状況などの健康情報は適正な取扱いの確保に努めるとともに、利用者の情報を他の医療機関等と上手く共有し、継続的な治療と看護に生かした。

●評価と課題

嘱託医と連携し、健康状態に対しての情報の共有を密に行い、異常の早期発見と早期治療に心掛けた。去年と比較し、入院状況を見ると、延べ人数は増加し、実人数は減少している。このことから、持病により、経過観察として、入退院を繰り返す利用者が数名いることから、延べ人数は増加したものの、実際、入院に至った利用者は30%減少した。今後も利用者の健康の維持と増進に努めていきたい。また、感染対策として、インフルエンザ、ノロウイルスに加え、新型コロナウイルス肺炎感染症に対しての感染予防対策の徹底を心がけ、予防法などの周知徹底に努めた。結果、どの感染症に関しても、入所者、通所者共に感染者は0人と

いう結果であった。今後、従来の感染予防策に加え、新たな病原体にも対応した感染対策がなされるよう努め、感染の蔓延防止に努めていきたい。

### (3) 給食

①献立は十分な栄養と変化に富んだ内容とし、また調理にあたっては利用者の嗜好や身体的条件による咀嚼や食事動作の障害を十分に考慮し、利用者に満足してもらえる給食の提供に努めた。

- ・嗜好調査の実施（2月19日～3月22日）
- ・給食委員会の開催 毎月実施
- ・選択メニューの実施 年41回（前年度35回）
- ・鍋物の日の実施 年0回（前年度4回）
- ・バイキングの実施 年0回（前年度2回）
- ・治療食等の実施（令和3年3月31日時点）
  - 脂質コレステロール食 0名（前年度0名）
  - カロリー制限食 0名（前年度0名）
  - 塩分制限食 4名（前年度4名）
  - 刻み食 12名（うち通所者0名）（前年度9名、うち通所者1名）
  - 超刻み食 11名（前年度13名）
  - ミキサー食 1名（前年度0名）
- ・食品自主検査、検便、厨房内清掃は、給食業務委託業者において実施した。
- ・防鼠、防虫施行管理業務は、委託業者において実施した。

②災害発生時における復旧時までの非常備蓄品として、アルファ米・保存水・レスキューフーズ等の食品、簡易食器（紙皿・紙コップ・割り箸等）等を概ね4日分準備した。

③入所利用者の栄養健康状態の維持や食生活の向上を図るため、個別の栄養、健康状態に着目した栄養ケアマネジメントを実施するため、個々の利用者とのアセスメントを踏まえた栄養ケア計画策定のため、個別支援計画策定会議の中で栄養ケアマネジメント会議を開催し、生活介護利用の入所者52名、就労系事業利用の入所者19名の計画作成及びモニタリングを実施した。

#### ●評価と課題

・給食管理：総合的には安心、安全な食事を一富士フードサービス（株）と連携し提供できた。しかし、食材の種類や量の偏り、通所者や入所者の欠席や欠食等による大幅な食品ロスもみられた。今後も満足の高い給食を提供しながらも、こまめな調整が必要である。また、温冷配膳車の導入が実施され、適時適温が可能となり、満足度向上に繋がった。コロナ禍でバイキングや鍋物を中止せざるを得ず、その代わりとなるように選択メニューの回数を増やし、テイクアウトや行事食を工夫した。今後も毎年実施している嗜好調査の結果をもとに、より良いものを提供していく。

・栄養管理：栄養目標量に対し、それぞれの栄養素の給与栄養量は平均75%以上達成できたが、カルシウムとビタミンAが60%台である。カルシウムとビタミンAを多く含む食品やメニューを多く取り入れるなど工夫が必要である。また、栄養ケア・マネジメントについては、個々の栄養状態を判定し、改善すべき栄養上の問題を解決するために担当職員や専門職との連携を図ることができた。しかし、まだ十分とは言えず、ひとり一人に合った栄養量の提供・給食以外の摂取内容の把握と改善、安全な食事形態の見直し、多職種連携のシステム作り等を行い、栄養ケア・マネジメントのゴールである、利用者の生活の質、人生の質の向上につなげていく。

(4) 就労支援

①就労継続支援B型事業所においては、利用者の障害状況や適性、地域の実情や景気動向を十分に勘案して作業種目を選定し、個別支援計画に基づき支援を行った。

②工賃向上に向けた取り組みとして、主なものとして以下のことを行った。

- ・毎月の月例会において利用者に対し工賃向上の取り組みについて説明を行った。
- ・利用者一人ひとりに令和2年度の目標工賃額と実際の支給額について説明し配布した。
- ・企業内清掃作業の取り入れで、けやきの村内の清掃作業と法人内施設のエアコンフィルター清掃を行った。
- ・印刷業務では、行政機関や企業と封筒印刷や名刺印刷の単価契約を締結し、年間を通じて受注を受けた。
- ・福島市役所（(株)福厚企画）と年賀状、喪中はがき印刷について業務委託契約を締結し、印刷の仕事を受注した。
- ・お歳暮用として日本ハムギフトセットの委託販売を行った。
- ・新規作業として、紙業会社と委託契約を締結し、段ボール製品の組立作業を開始した。また、玩具の梱包作業も取り入れた。
- ・施設外就労として、資源回収業者と委託契約を締結し、古紙回収業務を請け負った。
- ・農福連携事業へ参加し、施設外就労でリンゴ箱の組立作業を行った。

③就労移行支援事業所においては、利用者の一般企業への就職を目標として、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター等との連携を図り、求職活動の支援に努めた。また、利用者の就労に関する適性や要望に応じた職種での職場見学の実施や特別支援学校および養護学校等の連携に努めた。

- ・一般企業等就職者数；0名
- ・ハローワーク登録者数；1名
- ・障害者就業・生活支援センター登録者数；1名
- ・企業採用試験等応募者数；1名
- ・フォローアップ支援（職場訪問）者数；2名

④将来の就労継続支援B型事業所および就労移行支援事業所の利用につなげるため、下記のとおり養護学校の生徒の実習を受け入れた。

- ・福島県立大笹生支援学校 高等部2年生 1名

⑤就労アセスメント実施状況

(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
男							
女							
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
男		1(4)				1(4)	
女							

※ ( ) 書きは、延べ実施日数

※就労アセスメントとは、労移行支援事業所等が、面談や作業観察によるアセスメントを行い、支援対象者の就労面の情報（作業能力、就労意欲、集中力等）を把握すること。

⑥年間事業収入額（新体系移行後）

年 度	年間事業収入額	年 度	年間事業収入額
令和 2 年度	17,121,791円	平成26年度	12,657,290円

令和元年度	20,099,516円	平成25年度	10,905,022円
平成30年度	19,654,262円	平成24年度	12,152,621円
平成29年度	19,781,663円	平成23年度	12,133,366円
平成28年度	14,039,938円	平成22年度	10,950,015円
平成27年度	13,301,930円	平成21年度	11,101,596円

⑦平成22～令和元年度事業別月額平均工賃額

事業所区分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
<b>工賃引上げ計画目標工賃</b>	<b>17,300円</b>	<b>20,900円</b>	<b>15,500円</b>	<b>18,000円</b>	<b>20,000円</b>	<b>15,000円</b>
就労継続支援B型事業所	12,743円	14,795円	14,605円	12,854円	14,228円	14,661円
就労移行支援事業所	11,106円	16,394円	16,925円	9,081円	8,237円	9,449円
生活介護生産活動事業	301円	332円	477円	707円	532円	475円
事業所区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
<b>工賃引上げ計画目標工賃</b>	<b>15,500円</b>	<b>16,000円</b>	<b>16,500円</b>	<b>20,000円</b>	<b>22,000円</b>	
就労継続支援B型事業所	15,733円	16,449円	17,429円	21,137円	20,092円	
就労移行支援事業所	12,404円	11,249円	7,539円	8,767円	5,401円	
生活介護生産活動事業	534円	616円	690円	790円	964円	

⑧平成28～令和2年度工賃引上げ計画書による目標工賃額

事業所区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
<b>工賃引上げ計画目標工賃</b>	<b>15,500円</b>	<b>16,000円</b>	<b>16,500円</b>	<b>20,000円</b>	<b>22,000円</b>

●評価と課題

就労継続支援B型事業では、主力となる作業（ヘルメット内装加工）の減産により、作業量の大幅な低下が見られたが、新規作業の開拓や施設外就労への取り組みを行った。新型コロナウイルス感染防止対策により、通所利用者の欠席も多く見られたが、在宅就労支援への取り組みを行い、利用率の減少に対応した。工賃額は2万円を超えることはできたが、目標工賃額の2万2千円には届かなかった。感染拡大は終息を見せていないが、主力作業の作業量も増え、新規作業も安定した受注となっている。利用率のアップ、工賃向上（目標工賃額の達成）に努めていく。就労移行支援事業では、定員利用が達成をしていない。関係機関との連携を図り、人材確保に努めていく。利用される方の適性や要望に応じた訓練や実習ができるよう、プログラムの充実と一般就労に向けて相談支援に努めていく。

(5) 各種訓練等の実施状況

①介護外出（一人では外出できない利用者のための訓練）

- ・生活介護 実施回数；47回 173名参加（実人員；38名）
- ・就労支援 実施回数；50回 84名参加（実人員；20名）

②バスハイク

- ・生活介護 実施回数；0回 コロナ禍のため、実施できなかった。



・就労支援 実施回数； 0回 コロナ禍のため、実施できなかった。

③一泊旅行

・就労支援 実施回数； 0回 コロナ禍のため、実施できなかった。

(6) 父兄参加・地域開放行事の実施状況 コロナ禍のため、利用者のみで実施。

①花見会(4月18日実施)

②盆踊り大会(8月6日実施)

③けやき祭(未実施)

④芋煮会(10月22日実施)

(7) 対外行事等への参加状況

① 三井流舞踊感謝大会 (4月7日) 0名参加

② 福島県障がい者総合体育大会(会津若松市) (5月17日) コロナ禍のため中止

③ 福島市障がい者スポーツ大会 (一月一日) ふくしまパラスポーツチャレンジ2020に代替

④ 中野地区大運動会 (一月一日) 中野小運動会に代替の為不参加

⑤ ふくしまパラスポーツチャレンジ2020 (10月14日) 3名参加

⑥ 障害者週間記念事業ふれあいのつどい (12月27日~29日) 0名参加

⑦ 中野地区展覧会出品 (2月1日~2日) コロナ禍のため中止

#### 4. 事故防止について

(1) 毎月の訓練については、火災・地震・水害等の非常災害時に利用者・職員が迅速・適切な行動がとれるよう、災害内容の想定や発災の時間帯等を工夫し訓練の充実を図りました。また、法人施設間・地域防災協力者・消防署・地域消防団など地域の方々との連携の強化のための「総合防災訓練」及び「総合防災対策協力者懇談会」の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、隣接施設と合同で職員のみでの総合防災訓練を実施した。

また、神奈川県相模原市の障害者支援施設において発生した利用者殺害事件を契機に、防犯対策に取り組むべく、職員対象に「防犯講習会」を開催していたが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、開催しなかった。

- |                |  |
|----------------|--|
| ① 避難訓練の実施      | 毎月1回   |
| ② 総合防災訓練の実施    | 年1回(令和2年11月26日)                              |
| ③ 夜間想定防火管理検証   | 年1回(令和2年6月25日)                               |
| ④ 地震・水害想定避難訓練  | 年3回 ※7月：風水害、9月：地震、<br>10月：水害(4施設合同水害発生時避難訓練) |
| ⑤ 消防設備法定点検     | 年2回  |
| ⑥ 火気・電気設備自主点検  | 年6回  |
| ⑦ 防災講話(ビデオ上映)  | 年1回 コロナウイルス感染症対策のため中止                        |
| ⑧ 飯坂消防署による防火査察 | 年1回(令和2年8月13日)                               |
| ⑨ 総合防災対策協力者懇談会 | 年1回 コロナウイルス感染症対策のため中止                        |
| ⑩ 法人内各施設合同通報訓練 | 年1回(令和2年8月31日)                               |
| ⑪ 防犯講習会        | 年1回 コロナウイルス感染症対策のため中止                        |

(2) 新規採用者・異動職員を対象に、消火器・防火扉・非常放送等の施設内の設備及び取扱い方法を説明した。

(3) 新規採用職員等を対象に実施している、年2回の普通救命救急講習会は新型コロナウイルス感染症対策

のため開催を見合わせた。

(4) 新規甲種防火管理講習会へは、コロナ禍のため派遣を見合わせた。

(5) 福祉避難所の開設を想定して、小型自家発電機及びジェットヒーターの使用訓練を実施した。

(6) 土砂災害の未然防止のために「防災対策～土砂災害等の未然防止のために」を基本として、土砂災害警戒区域・土砂災害危険箇所・地すべり防止区域および地すべり危険箇所等の情報を全職員で共有し、有事の際の対応に万全を期した。なお、静心園南側堰坂地域が急傾斜地の崩壊による特別警戒区域（平成21年1月30日福島県告示第62号）となっている。

(7) 福島市と連携し、令和2年10月10日に「災害における障がい者及びその家族のための避難所モデル事業避難訓練」に参加し、避難所開設、避難者（登録者）の受け入れ、市役所との連絡調整を実施要領に従い実施した。

●評価と課題

今年度はコロナ感染症対策を行いながらの避難訓練となり、避難場所や避難時の整列等を工夫しながら実施した。未だ非常放送設備の取扱いに戸惑ったり、初期消火等の手順についてどうしたらよいか分からないという職員も複数名おり、緊急時の行動要領等の周知ができていないため、行動要領を配布するなどして、避難訓練や有事の際に適切な行動がとれるように周知していきたい。

5. 施設の利用状況（各月初日現在在籍者数）

（名）

	入 所				通 所				合 計
	生活介護	就労B型	就労移行	計	生活介護	就労B型	就労移行	計	
4月	53	20	0	73	15	40	1	56	129
5月	53	20	0	73	15	40	1	56	129
6月	53	20	0	73	15	40	1	56	129
7月	53	20	0	73	15	39	1	55	128
8月	54	20	0	74	15	39	1	55	129
9月	54	20	0	74	15	39	0	54	128
10月	53	19	0	72	15	38	0	53	125
11月	50	19	0	69	15	38	1	54	123
12月	51	19	0	70	15	38	1	54	124
1月	53	19	0	72	14	38	1	53	125
2月	54	19	0	73	13	38	1	52	125
3月	54	19	0	73	13	38	1	52	125
合 計	635	234	0	869	175	465	10	650	1519
(平均)	52.9	19.5	0	72.4	14.6	38.8	0.8	54.2	126.6
前年度平均	53.0	20.6	0	73.6	12.7	40.3	1.1	54.1	127.8
3/31現在	54	19	0	73	13	38	1	52	125

6. 新規利用者及び退所の状況

	新 規	退所者	備 考（退所者の状況）
生活介護	7	6	死亡5名、入院1名
就労B型	7	1	他事業所へ1名

就労移行	1	1	入院契約終了1名
(合計)	15	8	

7. 定員充足率（令和3年3月31日現在）（名）

	定数		現員	充足率	備考
生活介護	54		67	124.1%	
就労B型	54		57	105.6%	
就労移行	6		1	16.6%	
(合計)	114		125	109.6%	
施設入所	80		71	88.8%	

8. 障害支援区分状況（令和3年3月31日現在 通所者は除く。）（名）

	生活介護	就労B型	就労移行	合計	割合	割合（前年度）
6	20	0	0	20	27.4%	23.0%
5	10	0	0	10	13.8%	16.2%
4	16	5	0	21	28.8%	28.4%
3	8	7	0	15	20.5%	21.6%
2	0	5	0	5	6.8%	8.1%
1	0	2	0	2	2.7%	2.7%
区分無	0	0	0	0	0.0%	0.0%
合計	54	19	0	73		
前年度	54	20	0	74		

9. 短期入所の利用状況

	利用者数	利用日数		利用者数	利用日数
4月	8名	36日	10月	13名	51日
5月	8名	36日	11月	12名	58日
6月	8名	40日	12月	11名	59日
7月	15名	61日	1月	10名	51日
8月	9名	55日	2月	9名	34日
9月	11名	57日	3月	8名	43日
			合計	122名	581日
			前年度	163名	719日

10. 通所利用状況（就労支援事業利用者）

	利用者数(名)			基本日数	平均 利用日数	利用率	備考
	B型	移行	合計				
4月	40	1	41	22日	17.1日	77.7%	

5月	40	1	41	23日	16.7日	72.6%	
6月	40	1	41	22日	17.1日	77.7%	
7月	39	1	40	23日	17.3日	75.2%	
8月	39	1	40	23日	16.0日	69.6%	
9月	39	0	39	22日	16.1日	73.2%	
10月	38	1	39	23日	17.6日	76.5%	
11月	38	1	39	22日	15.9日	72.3%	
12月	38	2	40	23日	16.1日	70.0%	
1月	38	1	39	23日	15.4日	67.0%	
2月	38	1	39	20日	15.6日	78.0%	
3月	38	1	39	23日	19.7日	85.7%	
合 計	465	12	477	269日	200.6日	74.6%	前年度77.6%